

だれでも幸せになれる教えです !!

# ひかり

2022年  
9月

205号

- ◇ご利益が出る信仰
- ◇無功德の功德
- ◇人に依らず法に依る

秋  
郊



宗教法人 真生会

# 信仰の視野を広げよう

『自分から家族へ、家庭から社会へ』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、  
自分の運命を変える在家の法華経教団で  
す。宗旨宗派は問いません。どなたでも  
安心してお越し下さい。

## ◇慈悲の世界「真生樂園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

## ◇即身成仏「輝く自分で作る」

- ・ありのままで輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声がけの実践

### ◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心…（まず人さま）
- 三、明るい心：（きっとよくなる）
- 四、尊ぶ心…（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

# 大観音祭り開催



10月23日（日）AM10:30 開式  
於、総本山真生寺

子孫繁栄総供養・特別胎内仏供養 申込受付中  
◆◇詳しくは総本山、各教会にお尋ね下さい◆◇

## 真生楽園にご奉仕の汗！

八月二十八日（日）午前九時から十二時まで総本山・真生樂園の草刈、草取りのご奉仕がありました。お祭り広場も恩師の池周辺も長雨と猛暑で、雑草が膝までの背丈に延びていましたが、皆さんのがんばりの献身的な働きにより、見違えるほどきれいになりました。聖地樂園のご奉仕は、「家庭や職場を楽しく、ぬくもりのある樂園に変える徳積みの身の布施行」です。一回でも多くご参加ください。

※十一月二十日（日）には全

国一斉聖地勤労奉仕があります。一人でも多く、ご家族でご参加下さい。お待ちしています。

### 樂園ご奉仕 御礼

多田佳央様  
加納啓至様  
河野紗央里様  
國井佑浩様  
高橋身衣様  
会長先生

宮田雄貴様  
佐口祐哩子様  
会長先生奥様  
(順不同)



お祭り広場の草刈り奉仕



恩師の池周辺の草取り奉仕

# 開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁



人生には三度慎重に考えねばならぬ岐路がある。①職を定める時②結婚に踏み切る時③親の死んだ時、この時の考えが間違つたら生涯禍根を残し失敗の道を歩むのである。こんな立場の時は、親か信じる徳人の意見を聞き、添削を受けるのが賢明な策である。

二十二歳の同年齢の若者が恋愛し結婚を申し出たら、彼女の親に大反対をされたというカップルが相談に来られた。良さそうな青年であり、優しそうな娘さんであるが、何故親が反対するのか。表面上は良さそうでも、親から見ると中味である二人の考え方が一人前に成長していないから反対されるのです。経済力、住宅問題、職業の不安定はないなど、親から見ると信用がないのです。失敗させたくないという親心なのです。恋愛は反対しませんが、成人になつたら自分中心の考え方で事を運ぶのではなく、相手の立場を考えて行動することが出来てこそ一人前なのです。

(1990年、眞実に生きるひかり81号より)

# ご真教法話

会長 田中庸仁



## ◇ご利益が出る信仰

長年信仰していても目に見えたご利益が出ないと、信仰がマンネリ化して情熱が冷めてくる人があります。せっかく信仰をしながら、なぜ結果現象としてのご利益が現れないのでしょうか？

それは、教えが知ってるだけの知識になつてしまつて「あれも知ってる。これも知ってる」と自高じこう我慢がまんになつて本当の実行ができるのです。

知っているだけの知識の教えでは問題解決の力にはなりません。納得できるまで師に何度も相談し指導を受け「なるほどそうか」と腹に落ちれば実行ができる、ご利益という答えが出るのでです。

「問思修」もんしじゅう 師によく聞いて納得し、腹に落として教えられた通りに実行する

という信仰の基本がしつかりしていればご利益は出ます。自分流に考えて、自分に都合の良いことだけを実行する「思修」の信仰では結果は出ません。

### ◇無功德の功德

何か良いことが起きることを仏さまの功德と思う人が多いと思いますが、今日一日が大禍なく、当たり前のように過ごせることも目に見えない仏さまの大きな功德であり、これを「お蔭さま」無功德の功德というのです。

信仰心のない人は、学歴・地位・財産という現実にある目に見える自力だけを頼りに生活していますが、自力ではどうしようもない事故や病気や通り魔など想定外の出来事に見舞われた時はアウトになってしまいます。

「煩惱ありと雖も煩惱なきが如く、生死に出入すればども怖畏の想なけん」と經典にあります。病気や悩みがあつてもその苦に振り回されず、生死にかかるような大きな変化にも動搖が無くなることも大きな功德です。

信仰心があり平素からお経を上げ、仏さまに徳積みをしている人は、まさかの時、人智人力を超える力、目に見えない仏（大自然）の大きな計らいや先祖の念いに守られ「お蔭さまで無事でした」と大難が小難、小難が無難になるの

です。常に目に見えない仏さまのバリアーで守られているのです。だから熱心な信仰者でも、ついうつかりお経上げや徳積みを忘れバリアーが途切れると、途端に事故や病気や不和などの禍が起きるのです。

## ◇人間改造の妙法

仏教とは「すべての人が仏になるための教え」です。釈尊の説かれた八万四千と  
いう膨大な經典の中で法華經は「諸經中の王」であり、「人を救い、世の中を良く  
する」という菩薩行によって自分の人格を完成し良い人間になる、つまり成仏する  
ための教えです。また、そういう「菩薩を育てるための教え」です。

法華經は人間いかに生きるべきかが説かれており、すべての人間に内在する  
仮性を磨き出し、潜在的可能性を発現させ、あらゆる困難にも挫けない確固た  
る自分に生まれ変わることができるから「人間改造の妙法」というのです。

よく怒る人が優しくなる。よく愚痴をこぼす人が感謝できるようになる。欲の深  
い人が施し強くなる。消極的な人が積極的になれる。怠け癖の人がよく働くよう  
になる。親を恨んでいた人が親孝行になる。人の欠点ばかりが苦になる人が長所が  
見れるようになるなど、法華經の教えと経力によつて、まったく新しい自分に生まれ

変わることができるのです。妙法の教えをたくさん聞き、毎日お経を上げ、菩薩行を実践すれば、生まれ変わった充実した生き甲斐のある人生が送れます。

### ◇人に依らず法に依れ

開祖さま亡き後、毎月うかがっているご法座に、九十六歳になられる心身ともに健康な信仰歴七十年のベテラン信者さんがみえます。法座を楽しみに待つておられ、毎月相談や質問をされ、子や孫たちに法灯継承もしておられます。この老信者さんは教える生き証人であり、聖祖様や開祖さまから学ばれた教えや体験の話は私も大変参考になります。

先日も「会長先生がいて下さり、何でも教えてもらえるので安心です。家族にも私が死んだ後でも、先生に何でも相談すれば安心だからと言っています」と大変有り難いことです。

「おばあさん、私を信じて下さるのは大変有り難い」ことですが、あなたの最初の師は栗山聖祖様です。栗山聖祖様亡き後は、開祖さまを次の師と仰ぎ、開祖さま亡き後は私を信じて下さっています。あなたの素晴らしいことは、ご縁のあつた師を信じるとともに、師の説かれる「ご法」を信じておられるから、師が亡くなつて

も信仰がブレないのです。

法華経は「妙法蓮華経」と法を經典の題名にしています。つまり法に帰依し法を実践することにより、無量の功德が得られるのです。師を信じ法友を大切にすると同時に、しつかり法を学び、法を中心とした生活を心掛けましょう。

#### ◇人生の使命を知る

人間は年を取るから老いるのではありません。理想を失い、現実に甘んじるようになると若者であつても精神的に老いるのです。余生安樂は「老いの泉」であり、死ぬまで世のため人のために行動することが「生命の泉」です。

「死ぬまで生きる」は開祖さまの名言です。老人も最後まで人間らしく生きるには「働き続ける」ことです。「働く」とはお金儲けではありません。体力は衰えてても愚痴おどろをこぼさず、自分のできることで傍はた（周囲）に樂（希望）を与えることはできます。年をとつても引っ込み思案になつてはいけません。発想も行動力も年寄り臭くなります。孫や若い世代とも交流して流行を知り、経験の知恵を伝え、そこにいるだけ、生きているだけで重みのある「文鎮老人ぶんぢんろうじん」になることです。

若者も自分だけの成功、自分だけの小さな幸せを求める、それで満足するようなスケールの小さな「青年老人」になつてはいけません。せつかくの人生を「どうしたら世のため人のために貢献できるか。何人の人を幸せにできるか」と常に情熱を燃やし、自らを鼓舞して夢と自信に満ち溢れた青春を生きましょう。

### 人間の精神を支えるものは使命です。

自分は何のために生まれ何のために生きるのか。その最高の意義を説いているのが法華経です。自分の成功や家族の幸せも大切ですが、自分の家だけが平和で幸せでも、隣<sup>となり</sup>が不幸という火宅であれば、自分の家にもいつ飛び火していくかわかりません。個人の幸せという小さな人生観から脱却し、一人でも多くの法友をつくり、共に幸せになるために法華経を伝え、人のために尽くすことが自らの生活と生命を守り、仏の境涯<sup>きょうがい</sup>へと近づいて行ける秘訣<sup>ひけつ</sup>なのです。

その実現のためには、日々の足元の実践が大切です。親を大切にし家族を幸せにしてこそ、他人を幸せにできるのです。今日の仕事に喜んでいる人が、世の中を良くすることができます。日常の個人的なわがままを卒業してこそ、家族や同僚から認められ尊敬されてこそ、大きな夢と使命が達成できるのです。

# 釈尊物語

(25)

## ◇◆自灯明、法灯明◆◇

釈尊が病いを得られ、涅槃の床に就かれた時、泣き悲しむ弟子阿難に釈尊は慈愛を込めて諭されました。

「阿難よ、泣くのをやめなさい。悲し

んではいけない。私はかつて説いたではないか。

『我らの教主の言葉は終わった。もはや、我らの師はない』と。だがそれは間違っている。私によつて説き教えられた教法と戒律とは、わが亡きのちにおける汝らの師である。』

すべて愛し親しんだ者とも、ついに生き別れ、また死に別れねばならない。死んでしまえば、その境涯を異にしなければならない。一切は壞法であるから、一たび生じたものが、いつまでも存するなどということは、あり得ないのである。

『自灯明・法灯明』です。姿かたちある私を頼りにしてはいけない。自分自身を依り処として人に頼るなど最初に自灯明を説かれたことには深い意味があります。

『自灯明』人生は自分自身で決め、自分の責任で生きていく。すべての苦しみの

阿難よ、汝らの中には、このように思う者がいるかも知れない。

答えは自分の中にある。自分で答えを出さなければならぬ。仏教は他にすがり、他に救つてもらう宗教ではないのです。苦に自分で向き合い、一つずつ解決し一歩ずつ歩んで行くのです。

これからは、あなたがあなたの人生をあなたとして生きていくのです。自尊心を持つこと、つまり誰からも後ろ指をされない自分になり、あなた自身に智慧をつけ、あなたがあなたの人生と命に責任をもつて全うできる人間になること。

『法灯明』自灯明の生き方を正しく歩み、責任ある人生を生きるために釈尊の説かれた法（眞理）を道標として歩むこと。最初に自己在りき、その自分は法に依つて在りきなのです。

---

仏教のゴールは自灯明、すべては自分の責任で生きよということです。他の責任にせず、自分の責任で力強く誇りを持つて生きよ。押し寄せる苦を人のせい、世の中のせいにして自分自身や現実から逃げているうちは、問題は解決しない。

師に頼るだけという浅い信仰にて、思考停止になつてはいけない。仏陀の、師の教えを深く理解し、心から納得すること。教えを知つていてるだけでは、単なる知識であり運命は変わりません。

苦の解決の突破力は「信」であり、信を支えるのは毎日のご供養、お経上げです。大きな声で朗々と、仏さま、ご先祖様に届くように念を込めて行住坐臥、身口意（心）に題目を唱え続けましょう。

# 今月の運勢（10月）

(2022年10月8日～11月6日)

## 一白水星

草創期の苦難がある。  
無から有を生み出すに  
は絶大なエネルギーが  
必要。予測不能な困難  
を乗り切ってこそ、苦  
労が喜びとなる。軽率  
な前進や急進は危険。

たりと構え、全体をよ  
く見渡すこと。周囲か  
らも注視されているの  
でポジティブな言動を  
心掛け、イキイキ明る  
く振る舞うこと。

## 六白金星

軽口を慎み、人の批判  
をしないように気を付  
けのこと。

無知が苦悩の本とな  
る。世の中は知らない  
ことの方が多い。誠意  
を持って自分の方から

## 八白土星

が、タイミングを外さ  
ないことが大切。

目上の助言を仰ぐとよ  
い。言葉使いには注意。  
二黒土星

志す所は正しいがエネ  
ルギー不足である。大  
きなことを為すには時  
期尚早、準備不足。時  
間をかけて前進するこ  
と。大果は得られない

壁にぶつかって変化の  
時を迎えている。目標  
にはまだ手が届かない  
が、正しい生き方を

守って進めば利がもた  
らされる。進退の決断  
は時の動きを見極め、  
あっさり去るか止まる  
か熟慮すること。

七赤金星

これまで見えていな  
かった世界が見え始め  
る。太陽のよくな明る  
さと知恵をもつて進め  
ば目上の寵愛ちょうあいを受け、  
周囲の人々が従いついて  
来る。堂々とした歩み

## 九紫火星

経験豊かな偉い人に出  
会えば安心である。  
優しさが欠けると目的  
が崩れるので、人に対  
する親切心を大切に。

嬉しい収穫の時を迎  
ている。仲間との楽し  
い出会いを大切にしよ  
う。暴飲暴食に注意す  
ること。ちょっととした

充電の時、慌てずゆつ  
三碧木星

たりと構え、全体をよ  
く見渡すこと。周囲か  
らも注視されているの  
でポジティブな言動を  
心掛け、イキイキ明る  
く振る舞うこと。

壁にぶつかって変化の  
時を迎えている。目標  
にはまだ手が届かない  
が、正しい生き方を

守って進めば利がもた  
らされる。進退の決断  
は時の動きを見極め、  
あっさり去るか止まる  
か熟慮すること。

## しあわせ眼鏡

生きるとは希望を持つこと  
人は希望がなければ生きられない  
希望がなければ探せばいい  
もしとの希望さえ失ってしまったら  
最初から作り直せばいい  
そうやって生きていくのが人生

お気軽にご連絡ご相談下さい

【総本山真生寺】	〒 501-1105	岐阜市彦坂 178 番地 TEL 058 - 235 - 7304
【岐阜教会】	〒 500-8882	岐阜市西野町 3 - 19 TEL 058 - 262 - 9615
【大阪教会】	〒 532-0028	大阪市淀川区十三元今里 3-4-10 TEL 06 - 6308 - 5637
【名古屋教会】	〒 454-0808	名古屋市中川区九重町 3 - 10 TEL 052 - 351 - 3904

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送りします。詳しくはお尋ねください。